

使われなくなった
のこぎり屋根工場
今後を語る座談会

第十一回
報告書



座談会内容
『起の礎』

日時、平成二十九年七月十七日
午後二時～四時

場所、旧田内織布蔵
一宮市起西生出73-1

講師、朱宮豊
Neutral arts 一級建築士事務所代表
及びなごや歴まちびと

第十一回のご座 『起の礎』

日時 平成 29 年 7 月 17 日 14:00 ～ 16:00

場所 旧田内織布蔵

講師 朱宮豊 (Neutral arts 一級建築士事務所代表及びなごや歴まちびと)

今回のテーマは「起」という町です。この町は市内でも特にのこぎり屋根工場が多い場所です。木曾川に面しており、古くから織物が盛んでした。ガチャ万時代には町に映画館があったり、今では尾西祭りでしか人影を見ない起街道も、当時は賑やかだったそうです。起は美濃路の宿場町の一つでもあり、歴史を思わせる風景がほんの少しだけ残っています。そんな一見パツとしない町を研究し、10年前に報告書をまとめた研究室があります。名古屋工業大学の是澤研究室です。今回は当時研究室に在籍されていた朱宮豊さんをお招きし、研究の内容を伺いました。



是澤研究室は、起にある湊屋さんの保存活用を目指し、地域の方と議論をされたり、建物の掃除をしたりと、様々な活動をされてきました。建物の価値を見直すときに欠かせないのが、その周りの環境や成り立ち・歴史の調査です。是澤研究室では、綿密な調査が行われ、それはその地域にあったのこぎり屋根工場にも及びました。

朱宮さんのお話から「始めはそこまで魅力のある町とは思わなかったが、調査を進める中で新しい発見が多くあり、のめり込んでいった」と、当時の朱宮さんの心境を勝手に推測しました。朱宮さんは研究室をご卒業されてからも、当時のお仲間と起の研究を継続されています。のこぎり屋根工場の魅力は、地域を支えてきた存在としての価値だけではなく、建築の構造や造形にもあるとおっしゃっています。

研究では、建物のことはもちろん、道が形成された時間軸や、建物と道との関係性が示されており、「街並」というものを強く意識させられました。参加者の藤森さんからは、「一宮は良いものがあったても点在していて、なかなか街並というものがない。力も分散してしまう。」という意見があがりました。この意見は、悪いところもあるが、良いところもある、と解釈できます。是澤研究室の、起を研究しようとした原動力の一つは、そこではないかと勝手に思っています。「分散していて発信力もなく分かりづらい」。行政や老人はやたら嫌いますが、研究者や若者にとっては宝の山なのではないかと思えます。自分で発見できる楽しみがあちこちに埋もれています。





参加者の今枝さん「何かないかなと小径に入って、なんとなく可笑しなものを見つける、言葉にあらわすほどのものでもない喜び」この文章はぼくが勝手に作文しましたが、今枝さんの言葉から感じたことです。また、工場を生産する場としての利用価値だけで判断するのではなく、建築の空間を楽しむという要素を考慮することはとても大切なことではないかとおっしゃっていました。

話はのこぎりマップに移りました。松原さんからは、地理的な情報や、建物の情報だけではなく、そこを使っている人、使ってきた家族の姿が感じられるものを作るといいのではないかと提案いただきました。家主さんの了承、十分な話し合いや聞き取りが欠かせず、とても大変な試みですが、その過程に大変な価値があり、成果物ができたころには面白い町になっているのだろうと想像できます。

稼働している工場の現場を、独自の視点で写真に収め、工場に新たな価値を与えた末松さんからは、現役の工場と廃業した工場との関係性を問いただす必要があるのではないかと、という意見がでました。尾州は産地としては今なお現役です。稼働している工場もまだまだあります。それらの工場の人たちと、のこ座としてどう関われば良いのか。大きな課題です。

朱宮さんたちの研究によると、起では古い建物から姿を消している傾向があるようです。古い建物は古くにできた道沿いに多く、古い道沿いの建物がより多く壊されているようです。工場では、単独で建てられたものより、母屋に併設された工場のほうが多く壊されているようです。

これは意外な結果でした。規模にもよりますが、単独である工場は、母屋に併設された工場より固定資産税が高いことが予想されます。また、母屋から離れていることで管理も難しくなります。母屋に併設されている工場は小規模なものが多く、一宮の工場の棟数の約八割を占めます。それらの工場は母屋と同じ敷地内にあるので、第三者による活用も難しく、そもそも貸したいという家主さんがほとんどいません。しかし、松原さんがおっしゃった「家族に焦点を当てたマップ」は、まさにこのような工場を対象に行うべきで、何となく在るもやもやを解決してくれる大きなきっかけになるかもしれません。

是澤研究室の活動の一環で、湊屋は登録有形文化財に登録されています。登録されると、外観の変更に関する制限が発生しますが、保存改修の設計費用の1/2補助、建物の固定資産税について1/2減税といったメリットがあります。のこぎり屋根工場を登録有形文化財に登録しようという動きがあったりもするのですが、登録されるためにはその建物の研究の報告書が必要で、記録があまり残っていない町工場を文化財にするのはなかなか難しいようです。

参加者の一人で、文化財登録が趣味の小林くんから面白い質問がありました。「起は、宿場町として栄えた歴史と、毛織物産業で栄えた歴史があります。宿場町の体系は重要伝統的建造物群保存地区の制度で守ることはできますが、毛織物産業の町並みはそうはいきません。しかし、もし宿場町時代の町屋で後に毛織物産業を始めた家があれば、重伝建の制度により毛織物産業の町並みを含めて保存することも可能かもしれません。両時代に共通する町屋はありそうですか。」彼の質問に対し朱宮さんは、そのような研究は今の所していないが、可能性があり、面白い視点だと答えられました。

例え10年前の報告書でも、それを知らない人にとっては初めて目に写るものです。一つの研究が時間を経て、新たな質問によって肉付けされ、より一層深い内容になっていきます。そのような積み重ねで、やがて文化になっていくといいですね、小林くん。

朱宮さん、10年前の資料を再度まとめていただき、ありがとうございました。

田内さん、立派な蔵を会場として貸していただきありがとうございました。

次回のこ座はヨーロッパのこぎり小旅行の報告です。よろしくお願いします。

